

令和4年1月
睦

あ お ぞ ら

月

第371号

鹿屋市青少年育成センター

鹿屋市共栄町20-1 TEL 31-1138
(鹿屋市教育委員会 生涯学習課)

「家庭と学校が連携したメディア対応」

鹿屋市立寿北小学校 校長 川崎 史明

GIGAスクール構想を踏まえ、鹿屋市の学校でも、今年度から一人一台のタブレットが導入され、授業でも大いに活用が図られています。家庭内でネットができる環境がある児童が、本校でも94%と増えてきており、ネット社会になっていることをひしひしと感じます。同時に、市生活指導研究協議会研究大会で講演いただいた「NPO法人ネットポリスかごしま」の戸高成人理事長の話にもありましたが、メディアがもたらす子どもたちの健康・発達への影響についても、研究が進んできています。夜中までゲームや動画視聴をしているのではないかと危惧される子どももいると思われそうですが、家庭での利用状況については、なかなか実態がつかめず指導がしにくい面もあります。しかし、ここで家庭と学校との連携が疎かになると、子どもたちの健康や未来に影響が出てくることが予想されます。そこで、本校では、昨年度からインターネット利用等実態調査から浮かび上がってきた課題を保護者と共有し、この問題に取り組んでいます。

1 保護者との実態の共有化

9月に実態調査を分析し、学校便りで紹介しています。また、各学級の保護者懇談会で、担任からも学級の実態を踏まえながら説明したり、保護者間で話し合ったりしています。なお、本校では、「ネット利用についてルールを決めていない家庭」は、昨年度の14%から9%へ減少し、利用時間制限等のルール作りを行った家庭が増えてきています。ネットトラブルについては、「悪口や噂」は5人(昨年度14人)、「ネットで知り合った

人と会ったことがある」は0人と、情報モラルの指導の効果も表れています。残された課題としては、「長時間のネット利用」です。

2 ネット利用に関する保護者への啓発活動

今年度は、6年児童と保護者を対象にして、増田クリニック医院長による「脳の発達とネット・ゲームの関係」の講演会を開催しました。また、3年保護者を対象に、e-ネット安心講座を活用し「インターネットの安心安全な使い方」についての講演会を実施しました。「スマホ・LINE・ゲームの利用時間と学力の関係」については、「1時間を越えると学力は比例的に下がり、3時間以上だと、宿題の効果もなくなるほど学力は低下する」等の、最近の研究データに基づく具体的な話を通して、保護者と危機感を共有しました。

ネット・ゲーム環境があまりない頃に小中学校を過ごした私たちの世代と、今の子どもたちの環境は大きく異なります。今こそ、保護者と課題意識を共有した具体的な取組が必要であると考えます。

